

大谷 竜, 内藤勲夫, 1998: GPS 可降水量の物理と評価, 第2章, GPS 気象学, 気象研究ノート, (192), 15-33.
齋藤智興, 木村富士男, 1998: 中部関東域における夏期の対流性降水の日変化, 天気, 45, 541-549.

Takagi, T., F. Kimura and S. Kono, 2000: Diurnal variation of GPS precipitable water at Lhasa in premonsoon and monsoon periods, J. Meteor. Soc. Japan, 78, 223-231.

Diurnal Variation of Water Vapor Content over the Kanto Area during Clear Summer Days Observed through GPS Precipitable Water

Taichi Sasaki* and Fujio Kimura**,**

* (Corresponding author) Doctoral Program in Geoscience, University of Tsukuba, 1-1-1 Tennodai Tsukuba, Ibaraki 305-8571, Japan. (E-mail: taichi@erc2.suiri.tsukuba.ac.jp)

** Terrestrial Environment Research Center, Institute of Geoscience, University of Tsukuba.

*** Additional affiliation: Frontier Research System for Global Change.

(Received 20 January 2000; Accepted 6 December 2000)

総会成立に向けての御協力をお願い

常任理事会

2001年5月8日～10日に、日本気象学会春季大会が東京大学にて開催されます。その中日の9日(水)午後には、総会が行われ、予算や事業計画などを含む重要事項が審議されます。

総会は、可能なかぎり多数の通常会員が参加し、学会の在り方や活動をよりよく発展させるために、会員各自の考えを出し合い議論する場です。従いまして、会員の総会への参加は、会員としての重要な権利であり、(強制ではないけれども)義務でもあります。

前回の総会から、「総会の成立条件は通常会員数の過半数」となりました。我が学会の実情から言いますとこの過半数は相当大きな数であり、総会成立が危惧される数であります。このような状況を踏まえて、前回は、会員の皆様に積極的に「参加」の呼び掛けを行いました。その結果、皆様のご協力を頂くことができ、過半数を上回る参加数に達し、総会は無事成立致しま

した。

総会成立の困難な事情は、今後とも続くものであり、会員の皆様には、こうした状況をご理解して頂き、今回の総会におきましても、前回に増しまして総会参加のご協力を頂きますよう、心からお願い申し上げます。

なお、総会参加の形態は、総会会場に直に出席して頂くのが最も望ましいものですが、都合でそれがご無理な場合には、総会への意思表示を文書によって示して頂く方法もあります。それで、前回は「総会参加票」の葉書またはFAXなどの文書を提出して頂くことをもって、総会参加と意思表示とさせて頂きました。次回も同様な形で実施したいと考えておりますので、重ねてご協力をお願い申し上げます。

なお、総会参加票の葉書は春季大会の数週間前にすべての会員の皆様に郵送される予定です。